

北海道新聞

号外

発行所
北海道新聞社
郵便番号 060-8711
札幌市中央区大通西3-6
電話 011(221)2111
©北海道新聞社 2016



非常用持ち出しクイズに真剣に取り組む参加者

冬型災害の備え万全に

ぼうさいタウン〜今、ここから「たすけあい」を広げよう〜

300人が避難所生活を疑似体験

北海道労働者共済生活協同組合（全労済北海道本部）は23日、札幌市白石区の札幌コン

ベンションセンターで冬型体験型防災イベント「ぼうさいタウン」を開いた。全労済の組合員など約300人が参加した。

このイベントは、全労済北海道が、1956年に道内で開始した火災共済事業が60年を迎え、防災意識や避難所生活の模擬体験などを通して自然

「寒い日に体温まる」 昼は豚汁の炊き出し



炊き出しの豚汁を受け取る参加者

災害への備えを考えるために実施した。

最初に、根本昌宏・日本赤十字北海道看護大学教授が、冬の災害時への心構えや避難所生活について基調講演した。根本教授は「災害は常に想定外です。冬の災害を想定してみましょう。冬の場合、避難所はどうなるのでしょうか。何をすればいいのか、家族、地域で考えておきたいこと、生き抜くための知識・行動をこの場で考えてみましょう」と訴えた。

その後、各ブースで段ボールパーティー組立や一次救命装置などを体験した。

災害時に持ち出せる品物をゲームを通して考えた。参加の子どもたちはグループ内で「これは必要」「避難所では使わない」と意見を出し、持ち出す品を決めた。

また、冬の災害時に車の暖房が利用できない状況を想定した車中泊を疑似体験した。車内の温度は氷点下10度以下にまで厳寒期の北海道は冷え込みます。エンジンを切った状態で寝袋や防寒着などでいかに寒さがしのげるかに挑戦した。

雪、寒さ対策しつかり

札幌市は、積雪寒冷地でありながら人口190万人を超える大都市です。災害が冬季に起こることによって被害が大きく拡大することが考えられます。積雪の中での避難や暖房が使用できない身を守るためには、夏季とは違った防災対策を行うことが必要です。冬の防災対策について考えてみましょう。

雪下ろし、避難路確保を

災害が発生した際に速やかに避難できるよう、普段から除雪などの対策をしておくことが大切です。

屋根にたくさんの雪が積もっていると、地震の際に雪の重みで家が倒壊する恐れが高まります。また、落雪で避難路がふさがれることも。悪天候のときは避け、転落やけが

災害時には、屋根からの落雪などにより、玄関がふさがれることがあります。そのため、窓が避難口になることも想定し、窓の周辺もこまめに除雪しておきましょう。

防寒具用意忘れずに

災害時は停電が伴うため、暖房器具を使えなくなる。そのための、寒さをしのぐ準備が必要です。事前に着用しなくなっ

たジャンパーや帽子、手袋などの防寒具を用意しておきましょう。また、厚手の靴下があると、足元からの冷えを防ぐのに役立ちます。

災害お役立ち情報

◆災害用伝言ダイヤル「171」

災害用伝言ダイヤルには、大規模な災害が発生した場合に、電話がかかりにくい状況になっても被災地の方の安否を伝えるための声の伝言板です。「171」をダイヤルし、音声ガイダンスに従

って伝言の登録や再生を行います。

※災害時以外には使用できません。

【使い方】

「171」を押す。伝言を入れる場合

「1」を入力(被災地の人は自宅の電話番号を入力)。

伝言を聞く場合

「2」を入力(被災地以外の人は被災地の電話番号を入力)。

◆災害時の連絡先(札幌の市外局番は011)

中央区役所	231
豊平区役所	822
2400	

冬の非常持ち出し品リスト

- 防寒具 (スキーウェアなど)
- 毛布
- カイロ
- 寝袋
- 長靴
- 衣類 (厚手の長袖、長ズボン)
- 食料・飲料水
- 携帯用ラジオ
- 下着
- 軍手
- 懐中電灯
- 持病の薬
- 救急セット
- 現金・貴重品
- 乳幼児用品
- 予備メガネ
- 《寒さに役立つグッズ》
- 防寒シート…小さく畳んでの
- 持ち運べる薄いアルミ製の
- シート。
- ホームセンターなどで購入
- 入でき、優れた保温性を
- 揮します。

緊急時の連絡先

北区役所	757
清田区役所	889
東区役所	741
南区役所	582
白石区役所	861
2400	
西区役所	641
厚別区役所	895
手稲区役所	681
◆火事・救急・救助	119番
◆停電・電気の故障	北海道電力 221
◆ガス漏れの時	3161
北海道ガス	233
◆水道の夜間・休日の緊急連絡先	211-7770
(情報提供・札幌市危機管理対策室)	

火災の煙 怖さ痛感

親子連れが体験



煙の中を体験した親子連れ

火災の際の煙の怖さを疑似体験する「煙体験テント」のブースには、大勢の親子連れが参加した。体験テントに入ると煙で前が見えない中、姿勢を低くしてはうよううに進んでいた。煙の怖さを感じた参加者は、安全な避難方法と冷静な判断、行動力が求められると話していた。